

Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第142号

ななえ古写真物語 VOL. 142

大沼小学校の始まり

私立から始まった学校
明治41年から大正初期
大沼地区



nanae historical
museum collection

「大沼の地たる、南方山岳を負い、西北は大小の湖沼を以て限り、東方は平坦にして軍川村に通ず。而して、軍川尋常小学校はこの地を距する二里程にして、加うるに未だ完全なる道路なく、児童の通学至難なり。... (中略)」

この文は、明治37年3月15日付で作成された大沼学校設立趣意書である。発起者は宇喜多秀夫、永井恒孝、山口八重次郎、大関亀太郎、国定佐惣治、間宮光文、一戸伴司、庭田寅吉の8名で、その後、趣意書が村内を回り、宿願の大沼学校が設立されたのが、同年6月25日だったことを考えると、今では想像もできないスピードで、開校に至ったと思われる。

大沼は、明治30年以降に本格的な開墾が進められた場所で、明治36年に函樽鉄道が開通し、停車場が設けられたことで、戸数が増加した。人口は170人を越え、児童数も30人以上になったため、かねてより住民は、学校の設置を望んでいたのだが、資金や経費の問題から、足踏み状態が続いていたようである。しかし日露戦争が開戦したことを契機に、通学困難な児童へ教育の恩沢を施さんと、村民たちは決断した。それが、この趣意書の作製に至ったという訳である。

趣意書の後段には、「此に於いて不詳等発起者となり、有志の抛出に依り仮校舎を建設し... (中略)...同志の諸志、応分の助力ありて、速やかに本趣意を貫徹せしめられんことを請う」とある。これにより、村民一丸となってわずか3ヶ月での開校へと至ったという訳だ。

創立当初の校舎は、軍川村字長井川番地外の古旗力造所有の長屋の一部を改造。戸板は黒く塗られ黒板に、飯台の足は取り換えられ教壇に、時計は高橋良材が寄贈したという。また、児童17名の指導は、宇喜多秀夫や大関亀太郎などの有志が交代であたり、明治37年度分の経費についても、有志38名の抛出でまかされたというのだから、まさに村民の熱望によって開校した学校であり、後に軍川小学校附属となるまでは、公立ではなく私立の学校だったといえる。

時代は令和となった今も、大沼小学校は場所こそ違えども、この地域の児童を育成し続けている。そして、令和2年4月からは大沼小学校、軍川小学校、東大沼小学校、さらに大沼中学校が統合し、「大沼岳陽学校」として新たなスタートとなる。それぞれの学校の歴史を忘れずに、以降の時代へ繋がることを切に願う。

4日

夜の博物館前期講座の最終夜、テーマは「日本最初の星形城郭 戸切地陣屋跡」。北斗市教育委員会の時田氏をお招きし、陣屋ができた経緯から、当時の統治状況や国際状況、また関わった人物に焦点をあてたわかりやすい解説でした。星形の城は、15～18世紀にかけて、ヨーロッパで発達した大砲や鉄砲での戦いに合わせて進化した城の形で、日本に入ってきたのは、江戸時代の終わり頃。戸切地陣屋は、様々な歴史のいたずらで、わずか13年で役目を終えたそうですが、すぐ隣の町の知られざる歴史を知った一夜でした。



28日

ジュニア探検クラブで、秘密基地作りに挑戦しました。まずは、周りから見つかりにくい場所をさがし、基地づくり開始です。木の枝をノコギリで切ったり、背の高くなった草を鎌で刈ったりして、材料を自分たちで調達。思い描いた基地の姿は臨機応変に変化していったようですが、完成させた基地で、昼ごはんを食べていました。その後は、先月収穫した大麦を「足踏回転脱穀機」を使って脱穀。少し前の農具を体験しました。



常設展の資料から

常設展示室は、おもに使用された季節ごとに資料が展示されています。「秋」のコーナーで、今回紹介するのは、「牛乳缶」です。輸送用に用いるもので、ブリキ製、容量は約20。実際にこの重さを体験してもらおうと、牛舎の展示室内に、同じ重さにしたものを置いています。見学に来た小学生に声を掛け、持ち上げてもらうのですが、これがなかなかの重さのようで、苦しそうな表情を浮かべます。来館の折には、是非その重さを体感してみてください。



編集後記 ~tawagoto~

館の周りで、トチノキやサクラが色付いてきた。にわかに雪虫も舞い始め、まばゆい光に白さを覚えるようになった。どうやら、いつの間にか、秋が訪れたようである。そういえば、陽が沈むのが早くなったなど、空に描かれた刷毛目のような雲を見上げていたら、聞きなれないさえずりがした。なんの鳥かと目を凝らしたら、声の主たちは、どうやらエナガの集団。賑々しく木々を移動する姿に、早くも冬の気配まで感じた。(やまだひさし)

11月の予定

1	金
2	土
3	日 文化の日
4	月 振替休日
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土 ジュニア探検クラブ
17	日
18	月
19	火
20	水 ビチャリ143号発行予定
21	木
22	金
23	土 勤労感謝の日
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土

11月の休館日はありません

在野研究

大学に所属を持たなくても研究はできる。そんな研究者達を紹介する本です。学習室で閲覧できます。



Pichari

～ピチャリ～

第142号

令和元年10月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp